**魅力と心拍の関係について**

・認知のみで魅力度が変わるのではなく、生体反応の変化として変わった可能性があるということでとても興味がわきました。

・虚偽のフィードバックを与えるという実験は斬新で興味深い研究だとおもったが、虚偽の心拍のフィードバックを与えても魅力的変容が生じていないという結果になり、多少残念感があった。

・虚偽フィードバックにあまり効果がないのは以外でした。（中略）こうした虚偽フィードバックは、説得力や違和感のなさを如何にして演出するか

が鍵となる様に思います。

・心拍が下がるという生理反応が現れたのは、その情報を取り込むために注意を向けていることであるということに納得し、この心拍が下がるプロセスを活用して、授業の集中度を心拍の下がり具合で測ることも可能なのではないかと考えた。

・身体的変化がフィードバックされるのは、変化に対する対応を行うといった良い意味でも、逆に疑問や不安や緊張が高まってしまうなどの悪い意味でも影響力が凄まじいことを改めて理解し、アップルウォッチの心拍数がわかる時計など、日常的に身体変化を可視化できるような商品や機能の重要性を考えさせられた。

・セミヌードの画像を使い実験していたが、時代とともに画像の方が変わり先行研究のような結果が得られなかった。実験の内容は常に変化していることがわかった。

・時代の背景も関与して生じた心身の現象をまとめた研究が、現代になってどのように変化したかを比較目的で実験するのは面白そうだと考えた。

・魅力度に関しては、前提としてその人に一定以上の興味がないとあまり効果はないのではないかと感じました。

**お笑いの測定結果について**

・安静時とクールポコのネタの時とでは心拍数の変化がみられて、やはり笑っているときは数値に表れるんだと印象に残った。個人的にお笑いがとても好きなので、今後自分自身で行う研究の候補の1つとして考えておきたいと思った。

・集中して見るから心拍数が下がるというのは知っていましたが、お笑いでも同じことに驚いた。

・前回芸人さんの映像をみて測定しましたが、今回その結果を知って自分の感情と答え合わせができました。

・お笑いの動画においてナイツなどのように最後に伏線をどんどんと回収しながら笑いに変えていく漫才では違った結果が見られるのかとても気になった。

・お笑い芸人のネタは人を笑わせるというだけでなく，展開にのめり込ませたり，オチまで注

目させたりするためのシナリオでもあると考えると心拍数が低下していく結果に納得がいった。

・クールポコの動画の時、かなり面白く笑ってしまいました。グラフにもクールポコが始まった瞬間数値が上昇したりしていて、やはり漫才を題材にした研究は面白いなと感じられた。怖い動画、悲しい動画を見た時の感情尺度はどう変化するのかをやってみたいです。

**実験に関して**

・あくびをした時に心拍数が上がり、その後とても下がりました。

・自分は時勢上，多人数に対して一度に実施する実験にしか参加したことがないため，機会があれば単独で参加する実験も一度は経験してみたいと感じた。

・最後にやった実験では1回目に見た映像と2回目に見たものは対照的であったため、どのような影響が出るのか気になった。

・2回目の映像とBGMがミスマッチすぎるという感覚でした。どこを焦点とした実験かはわからないですが、個人的には強く印象に残りました。

**その他**

・レディネスを待ってはいけないという点について、確かに最近の子供というのは進んでいるような気がします。例えばスマホなんかを持っている子供は、そこらの大人顔負けの知識を持っていたりします。

・単に一緒にいる時間が長い人物と言っても，命としての限られた時間を共有している人物と捉えると，確かにその信頼感は経済的・物的支援による安心感以上のポテンシャルがあると感じた。

・typeAにはストレス反応として作業を邪魔されたり、挑発にのってしまうことが改めてわかった。

・生理指標を複数測り総合的に判断するのはとても大事なことだと考えたが、複数の指標を測る場合には様々な機器を付けてもらう必要があるのか、または何か1つで様々な生理指標が測れるものがあるのか気になった。

・有名とされていたり、よく引用とされている研究でも意外と間違っている可能性があるかもしれないと実感しました。